第1回

浜通り連携協定サミットin浪江を開催しました

令和4年3月29日に、浪江町地域スポーツセンターで、第1回浜通り連携協定サミットin浪江を開催しました。

サミットでは、これまでの活動の振返りを行うとともに、本連携協定内容の役割に基づき、今後の浜通り地域のまちづくりに向け、決意を表した共同声明を発表しました。

問 企画財政課企画調整係 TEL 0240(34)0240

【共同声明】

「浜通り地域において、ワクワクする先進技術とサービスで、人と人がつながり夢があふれる住み続けたいまちの実現を各自治体の復興状況やニーズに合わせて段階的に目指していく」

①実証が進むスマートモビリティのまちへの定着および自由な移動の実現を目指す。

②電気自動車およびそのバッテリーの蓄電池活用などを通じ、再生可能エネルギーの地産地消によるRE100を目指す。

③地域コミュニティの中で、新しいヒト・モノと出会える機会を創り出し、にぎわいの創出による未来につながるまちづくりを目指す。

【共同声明の背景】

令和3年2月2日、福島県浜通り地域の3つの自治体と全国8つの企業は、東日本大震災からの復興並びに浪江町、双葉町および南相馬市が目指す、夢と希望のある未来の〝まちづくり〟実現に向け、本連携協定を締結しました。

締結以降は、各社が持つ資源、先進技術やノウハウを共有し、浪江町を中心に地域と共に持続可能なまちづくりに向けた活動を行ってきました。今回の共同声明発表を機に、さらに連携を深め、福島県浜通り地域が目指す未来のまちづくりに取り組んでいきます。

【これまでの取組】

①新たな移動手段となるモビリティサービスの構築

過疎地や復興地域における帰還・交流人口の増加に対応しうる持続的な公共交通サービスの構築、生活利便性の向上、さらに地域経済、産業の活性化に貢献する自由な移動や物流手段の検証を行うため、デジタル技術や先進技術を活用し、令和3年11月から約3か月間、浪江町にてオンデマンド配車サービスの実証や、令和4年1月から約1か月間、効率的な貨客混載の実証を行いました。

②再生可能エネルギーの利活用、低炭素化に向けた取組

電気自動車（EV）や定置型再生バッテリーを利用したエネルギーマネジメントシステムの構築と、施設や店舗での再生可能エネルギーの利活用を向上させ、地域の低炭素化を加速させるためのRE100化の実証として、令和4年1月から1か月半、「道の駅なみえ」にて再生可能エネルギーのみで町の公用車である電気自動車（EV）の充電を行うエネルギーマネジメントシステムの検証を行いました。

③コミュニティ活性化と強靭化

連携協定各社が有するノウハウや取組、教育などの各種コンテンツを活用し、町が主催するイベントへの協力を通じて、コミュニティの活性化に貢献いただきました。

また、電気自動車からの電力供給、防災・減災に寄与する活動を通したまちの強靭化を目指し、電気自動車（EV）からの電力供給による町のイベント運営への協力や、環境技術に触れる体験教室を通じてコミュニティの賑わい、強靭化に貢献いただきました。

【連携協定自治体・企業】

双葉町・南相馬市・日産自動車株式会社・フォーアールエナジー株式会社・福島日産自動車株式会社・日産プリンス福島販売株式会社・イオン東北株式会社・日本郵便株式会社東北支社・株式会社長大・株式会社ゼンリン

ここから下は広告です。